

## 市長のあまねくつぶやき

行方市版総合戦略書の表紙に「10年後の行方市を考えよう。」と記載されています。未来の行方市を創り上げる方法はひとつではなく、さまざまな方法により市民と行政が一緒になって考え進んでいくことが大切になります。また、本市の現状がどのようになっています。また、これからの見通しを踏まえながら基本的な考え方、具体的な取り組みを定めることも併せて必要となります。また、日本各地で人口減少が問題となつていきます。本市においても合併当初から比較しても約5千人の人口が減少しています。この状況避けていくことはできませんし、急激な経済成長も期待できません。しかし、これらを悲観するのではなく、他にはない「行方ならではの価値」を市民が共有することが郷土に対する愛着心や自信に繋がってくると思います。

総合戦略書において3つの基本理念を掲げています。

1つ目は「継続から変革へ」です。10年間継続して培ってきた市民力を背景に、「若い世代が将来に希望が持てるようなまち」を実現できるよう、市民、地域、行政が同じ目標に向かって、行方らしい価値観を共

有できるまちづくりを進めていきます。

2つ目は「みんなが主役のまちづくり」です。行政はこれまで、市民が地域の課題を「自分事」として捉えるだけの情報を整理し、共に考えることができていませんでした。また、市民が市の現状や課題を知り、解決策を考え議論し活動できることが大事です。今回の総合戦略書の策定をきっかけとして市民が主役として活躍できる環境を整えていきます。

3つ目は「身の丈に合った市政運営」です。人口減少が進むなかで、過剰な投資や借金は市民の負担を重くするだけでなく次世代にも負担を強いることとなります。できる限り次世代に負担をかけず、持続可能な市政運営ができるように、市民と一緒に解決策を考えていきます。これらの基本理念を中心に、市民と行政が一体となり行方市の将来像を創り上げていきます。

行方市長 鈴木周也



市長へのEメール  
投稿用2次元コード



市政に対する意見や  
提案をメールでお寄せ  
ください。

## はい、こちら行方市消費生活センター！

### 電力小売り全面自由化便乗商法に注意して！

#### 【事例】

「2016年4月に電力料金が自由化になり、太陽光発電システムが儲かる」という電話があり、自宅で業者の説明を聞いた。設置料金は200万円ほどで、ローンを組むと月々1万円の支払いだという。しかし、説明通りの売電金額が約束されているわけでもなく、年金暮らしの自分がローンを抱えることにも不安になった。

#### 【解説】

電力の小売り全面自由化を口実にして、太陽光発電システムやプロパンガス、蓄電池等の勧誘が行われています。

今年の4月から電力小売り自由化により、多様な業種・業態の事業者から電力の契約を選択できるようになり、今後さまざまな勧誘が行われることが予想されます。

新たな小売電気事業者と契約する際には、①国の登録を受けた「小売電気事業者」か、またはその代理店か②契約期間や月々の電気料金、解約要件などの契約内容はどうか③停電など困った際の連絡先についてよく確認しましょう。

そのほか、不安に思ったりわからないことがあるときには、行方市消費生活センターにご相談ください。

— まずはお電話を！ —

【問い合わせ】行方市消費生活センター TEL 0291-34-6446

